

神奈川県人口ビジョン ・ 第3期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂案の概要

令和7年1月

神奈川県政策局自治振興部地域政策課

人口ビジョンと 第3期総合戦略の位置付け

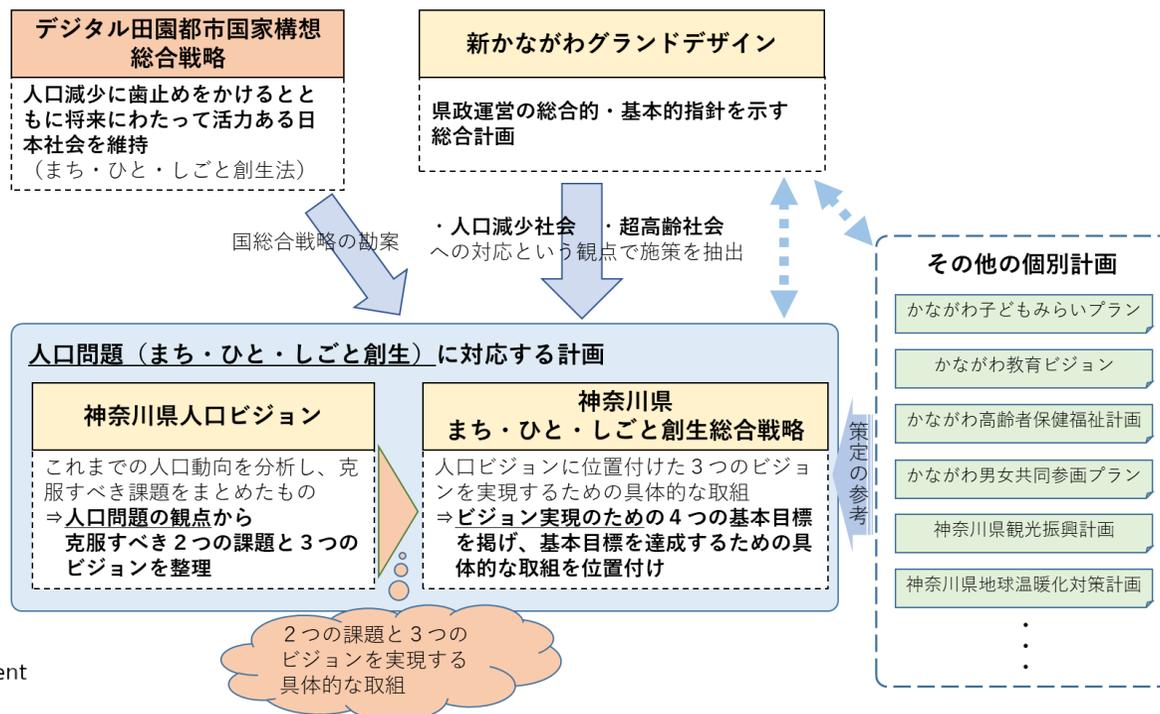
1 人口ビジョンと総合戦略の位置付け

■人口ビジョンとは

- これまでの人口動向を分析し、克服すべき課題と課題の解決に向けたビジョンを整理したもの

■総合戦略とは

- 人口ビジョンに位置付けた3つのビジョンを実現するための具体的な取組
 - ✓ 国総合戦略を勘案しつつ、人口ビジョンで整理した克服すべき2つの課題と3つのビジョンを実現するための具体的な取組をまとめたもの
 - ✓ 新かながわグランドデザインから施策を抽出したほか、その他の個別計画を参考にKPIや取組等を位置付け



人口ビジョンの改訂概要

2 人口ビジョン改訂方針（前回会議資料から抜粋）

■人口ビジョン改訂の方向性

人口ビジョンとは、①これまでの人口動向を分析し、②克服すべき課題とその解決に向けたビジョン等を将来展望として広く共有するもの

⇒①人口分析、②将来展望の2点を柱とする（現行人口ビジョンと同じ）

■改訂の中身

①人口分析

➤ データの最新化

- 最新の統計データ、将来推計などを踏まえ、各種データを更新
- 令和6年度実施の県民意識調査結果の反映（希望出生率の最新化など）

➤ 近年の人口動向を踏まえた分析項目の検討

（近年の注目すべき動向）

- 本県総人口の減少
- 出生数・合計特殊出生率の大幅な低下（過去最低を更新）
- 人口戦略会議による「消滅可能性自治体」の議論

②将来展望

➤ 克服すべき課題とその解決に向けたビジョン

- 克服すべき課題と解決に向けたビジョンは長期的な視点に立って定めたものであることから、人口分析で劇的な変化がない限り方向性は維持

➤ ビジョンが実現した場合の将来シミュレーション

- 最新のビジョンを踏まえて出生率、純移動率の仮定を見直したうえで、最新のデータを用いて将来人口のシミュレーションを実施

3 人口ビジョン改訂概要

① 構成

■現行人口ビジョン■

■人口ビジョン改訂（案）■

新

第1章 人口ビジョンの位置付け

1 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略と神奈川県人口ビジョンの関係

2 人口ビジョンで示すこと

第2章 人口分析

1 人口動向分析

- (1) 長期的な人口動向の分析
- (2) 出生動向分析
- (3) 人口移動分析
- (4) 雇用・就労分析

2 将来人口分析

- (1) 人口の将来予測
- (2) 人口減少及び人口構成の変化がもたらす影響

第3章 将来展望

1 克服すべき課題

2 課題の解決に向けたビジョン

3 ビジョン実現時の人口の将来展望(シミュレーション)

- (1) 県総人口の将来展望(シミュレーション)
- (2) 地域政策圏別人口の将来展望(シミュレーション)

第1章 人口分析

1 人口動向分析

- (1) 長期的な人口動向の分析
- (2) 出生動向分析
- (3) 人口移動分析
- (4) 雇用・就労分析

2 将来人口分析

- (1) 人口減少社会と超高齢社会
- (2) 人口減少及び人口構成の変化がもたらす影響

第2章 将来展望

1 克服すべき2つの課題

2 3つのビジョン

3 人口の将来展望

- (1) 人口の推移と将来展望
- (2) 地域政策圏別人口の将来展望

<主な変更点>

- 第1章を追加し、人口ビジョンの位置付けを明示的に整理
- 内容をより適切に反映させる項目名に一部修正

3 人口ビジョン改訂概要

② 人口分析における分析項目

【1 人口動向分析 (1) 長期的な人口動向の分析】

■追加した分析項目

➤ 年齢5歳階級別・地域政策圏別 人口推移〔図表6～10〕

<内容>

- ・総務省「国勢調査」の結果から、地域政策圏別の年齢5歳階級別人口の1980年からの推移

<ねらい>

- ・人口戦略会議による「消滅可能性自治体」が若年女性の人口動向に注目した分析
⇒総人口の増減だけでなく、人口の年齢構成の推移にも注目するため

<分析結果>

- ・人口減少が続く地域だけではなく、**人口増加が続く地域でも、40歳未満の人口は減少**

【1 人口動向分析 (2) 出生動向分析】

■追加した分析項目

➤ 出生順位別出生数の推移〔図表14〕

<内容>

- ・1995年を100とした場合の出生の順位別にみた出生数の推移

<ねらい>

- ・1人が持つ子どもの数が減少しているのかどうかを把握

<分析結果>

- ・第1子は減少、出生順位が上がるにつれて減少割合が少ない（第5子以上は増加）
⇒「子どもを持つ・持たない」だけでなく「多く持つか・持たないか」の2極化も進んでいる可能性

3 人口ビジョン改訂概要

② 人口分析における分析項目

【1 人口動向分析 (2) 出生動向分析】 (つづき)

■追加した分析項目

➤ 年齢5歳階級別・出生順位別女性千人当たりの出生数〔図表15～17〕

<内容>

- ・母の年齢5歳階級別に女性人口千人当たりの出生順位別出生数の推移

<ねらい>

- ・年齢によって出生動向に違いがあるかを把握

<分析結果>

- ・20歳代の女性千人当たりの出生数は減少が続くが、30歳代後半・40歳代前半の女性千人当たりの出生数は増加
⇒第1子も含め出生の年齢が高くなる傾向

➤ 地域政策圏別子ども女性比の推移〔図表18〕

<内容>

- ・地域政策圏別の子ども女性比（0～4歳人口(男女計)を20～44歳人口で割った値）の推移

<ねらい>

- ・地域により出生の動向に違いがあるかを把握

<分析結果>

- ・近年、湘南地域では上昇傾向、県西地域では低下傾向、その他の地域では横ばい傾向

3 人口ビジョン改訂概要

② 人口分析における分析項目

【1 人口動向分析 (2) 出生動向分析】 (つづき)

■追加した分析項目

➤ 男女別・年齢5歳階級別初婚年齢分布〔図表20〕

<内容>

- ・初婚年齢別婚姻数の分布の推移

<ねらい>

- ・平均初婚年齢は上昇したが、どのような要因で上昇したのかを把握

<分析結果>

- ・初婚が最も多い年齢は20歳代後半であることは変わりがないが、2番目に多い年齢が20歳代前半から30歳代前半に変化

➤ 生まれた年代別・年齢5歳階級別未婚率の推移〔図表22〕

<内容>

- ・男女別・年代別未婚率の推移を生まれた年代別に再整理

<ねらい>

- ・未婚率の推移の世代による違いを把握

<分析結果>

- ・男性は1970年代生まれで各年代で未婚率が上昇したが、再び低下に転じる
- ・女性は高止まり（以前の世代での20歳代での未婚率が低かった）
 - ⇒男性はいわゆる氷河期世代で未婚率が高くなる傾向
 - ⇒男女で婚姻年齢の差が縮小したと推測

3 人口ビジョン改訂概要

② 人口分析における分析項目

【1 人口動向分析 (3) 人口移動分析】

■追加した分析項目

➤ 東京都に対する周辺3県の転出入推移〔図表25〕

<内容>

- ・図表24「東京都に対する周辺3県の2023年の転出入状況」の過去の推移を示したもの

<ねらい>

- ・過去からの推移を示すことで、東京都との間の転出入がどのように変化したかを把握

<分析結果>

- ・神奈川県、千葉県は同じような推移を示しており、2020年以降、東京都に対して転入超過が続く
- ・埼玉県は2020年以前から、東京都に対して転入超過に転じていた

➤ 若年世代の転入・転出・転入超過数の推移（2012～2023年）【神奈川県】〔図表29〕

➤ 若年世代の東京都に対する転入・転出・転入超過数の推移（2012～2023年）【神奈川県】〔図表30〕

<内容>

- ・15～34歳の5歳階級別に注目した転入・転出・転入超過数の推移を示したもの

<ねらい>

- ・人口戦略会議が公表した「消滅可能性自治体」が若年世代の人口動向に注目した分析であることを踏まえ、本県の若年世代の動向を分析

<分析結果>

- ・他都道府県に対しては転入超過であるが、東京都に対しては転出超過（30～34歳は2020年から転入超過に転ずる）

3 人口ビジョン改訂概要

① 人口分析における分析項目

【1 人口動向分析 (3) 人口移動分析】

■追加した分析項目

- 若年世代の転入・転出・転入超過数の推移（2012～2023年）【各地域政策圏別】〔図表34,40,46,52,58〕
- 若年世代の東京都に対する転入・転出・転入超過数の推移（2012～2023年）【各地域政策圏別】

〔図表35,41,47,51,59〕

<内容>

- ・15～34歳の5歳階級別に注目した転入・転出・転入超過数の推移を示したもの（地域政策圏別に作成）

<ねらい>

- ・人口戦略会議が公表した「消滅可能性自治体」が若年世代の人口動向に注目した分析であることを踏まえ、本県の若年世代の動向を分析（地域政策圏別に作成）

<分析結果>

- ※詳細は人口ビジョン改訂案を参照

【1 人口動向分析 (4) 通勤先等に関する状況】

■追加した分析項目

- 地域政策圏別・従業者規模別事業所の推移〔図表64〕

<内容>

- ・地域政策圏別に従業者規模別事業所数の推移を示したもの

<ねらい>

- ・地方創生の起点に1つである「しごと」（働く場）の状況を把握

<分析結果>

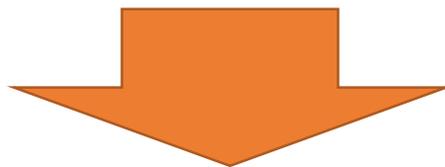
- ・川崎・横浜地域以外は事業所数は減少
- ・従業者数規模の大きい事業所は、川崎・横浜地域に集中

3 人口ビジョン改訂概要

② 将来展望

【1 克服すべき課題】

- ✓ 人口減少へ転じた中で、神奈川活力を維持するためには、「人口減少に歯止めをかける」ことが必要
- ✓ 人口減少に歯止めをかけるには出生率の回復に時間がかかることなどから相当の期間を要するが、その間にもさらに高齢化が進むことから、「超高齢社会を乗り越える」ことが必要



① 「人口減少に歯止めをかける」こと

② 「超高齢社会を乗り越える」こと

の2つの課題を同時に克服していかなければならない

3 人口ビジョン改訂概要

② 将来展望

【2 課題の解決に向けたビジョン】

<克服すべき課題>

①人口減少に
歯止めをかける

②超高齢社会を
乗り越える

<課題の解決に向けたビジョン>

① 「合計特殊出生率」の向上（自然増に向けた対策）

- ✓ まずは県民の結婚・出産・子育ての希望が実現できる環境を整え、「希望出生率（1.18）」の実現をめざす
- ✓ 長期的には、将来にわたり人口が減少しないとされる「人口置換水準（2.07）」まで合計特殊出生率を引き上げる必要

② 「マグネット力」の向上（社会増に向けた対策）

- ✓ 日本全体の人口が減少する中で、社会増を維持するためには、神奈川の魅力を磨き「マグネット力」を高め、人やものを引きつけることが必要
- ✓ 特にコロナ禍で東京都に対して転入超過に転じた流れを維持しつつ、年間1～2万人の社会増を維持する必要

③ 「未病」の取組による健康長寿社会の実現（超高齢社会への対応）

- ✓ 高齢者数の更なる増加が見込まれる中、「未病」の取組をさらに進め、健康寿命を延伸を図ることで、健康長寿を実現し、超高齢社会を力強く乗り越える

3 人口ビジョン改訂概要

② 将来展望

【3 ビジョン実現時の将来展望（シミュレーション）】

■シミュレーションの考え方

- ✓ 解決に向けた3つのビジョンが実現した場合を仮定して、将来の人口や年齢構成をシミュレーションする
- ✓ この結果と特別な対策を講じない場合の将来推計※と比較し、ビジョンの実現が、克服すべき2つの課題の解決につながることを示す

※新かながわグランドデザインにおける2020年国勢調査に基づく推計の中位推計

■シミュレーションの仮定値

【合計特殊出生率の仮定値（ビジョン1関係）】

- 第3期総合戦略の計画期間最終年（2027年）に希望出生率（1.18）が実現
- 長期的（2065年ごろ※）には人口置換水準（2.07）まで合計特殊出生率が向上

※2065年に人口置換水準まで合計特殊出生率を向上するシナリオは、人口戦略会議「人口ビジョン2100」におけるめざすべきシナリオを参考に、これまで本県の合計特殊出生率が全国の合計特殊出生率よりもおよそ0.1ポイント下回って推移していることから、人口戦略会議のシナリオから0.1下回った値で推移させて設定

	2020年	2023年	2027年	2040年	2050年	2060年	2065年
仮定値(県)	1.26	1.13	1.18	-0.1↑ 1.50	-0.1↑ 1.70	-0.1↑ 1.97	2.07
人口戦略会議シナリオ	1.33	—	—	1.60	1.80	2.07	→

【人口移動の仮定値（ビジョン2関係）】

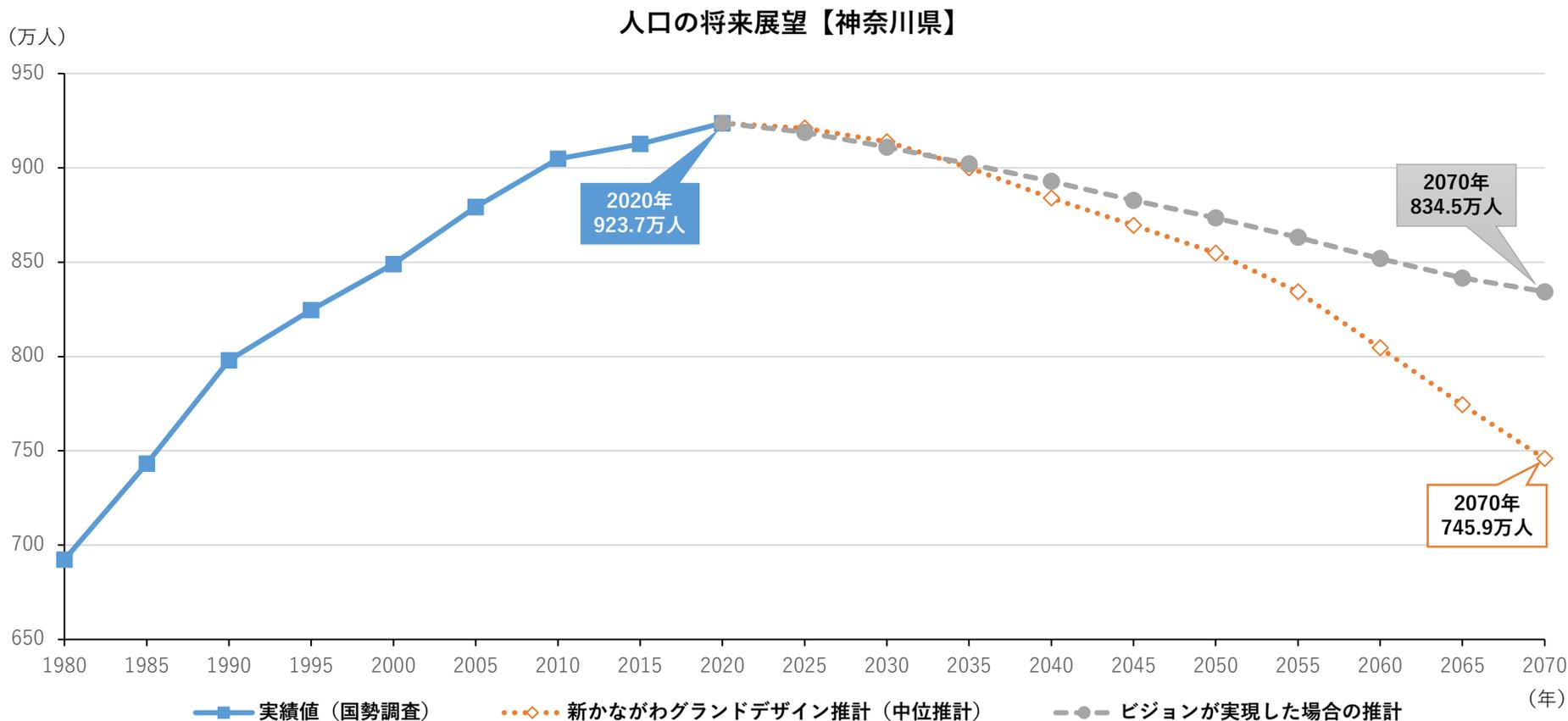
- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の仮定を準用（＝将来的に年間2万人程度の転入超過を維持）

3 人口ビジョン改訂概要

② 将来展望

【3 ビジョン実現時の将来展望（シミュレーション）】

■シミュレーション結果（県総人口）



※新かながわグランドデザイン推計（中位推計）の2040年より先の推計値は参考値

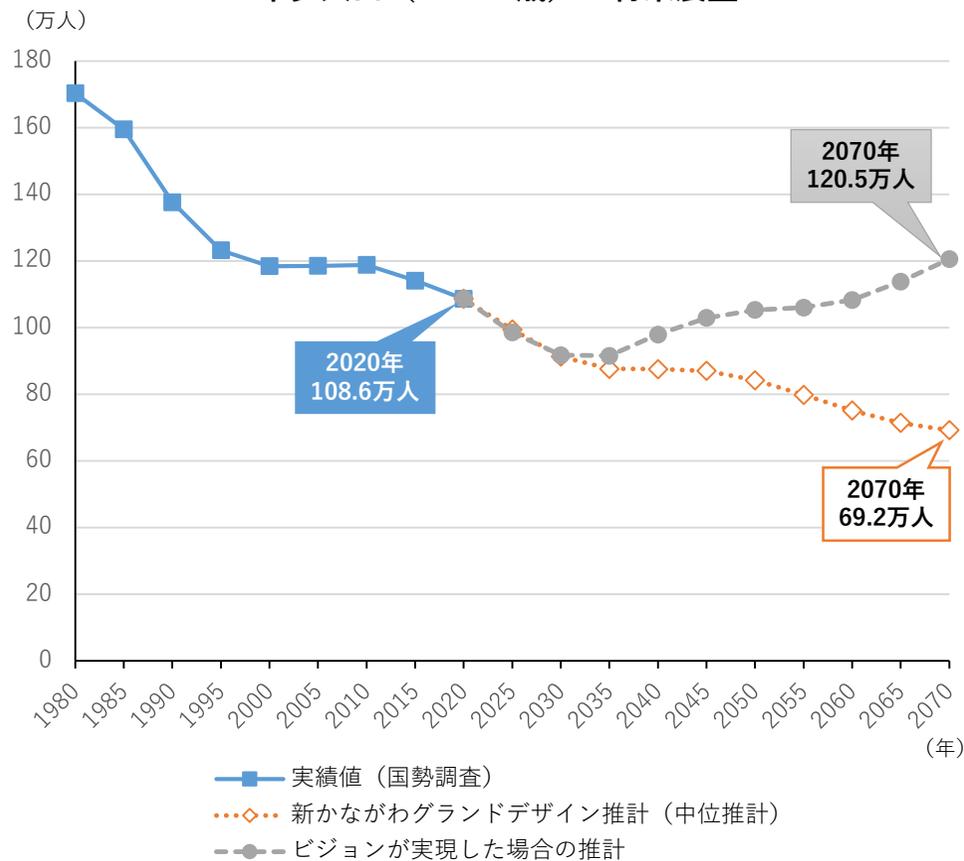
3 人口ビジョン改訂概要

② 将来展望

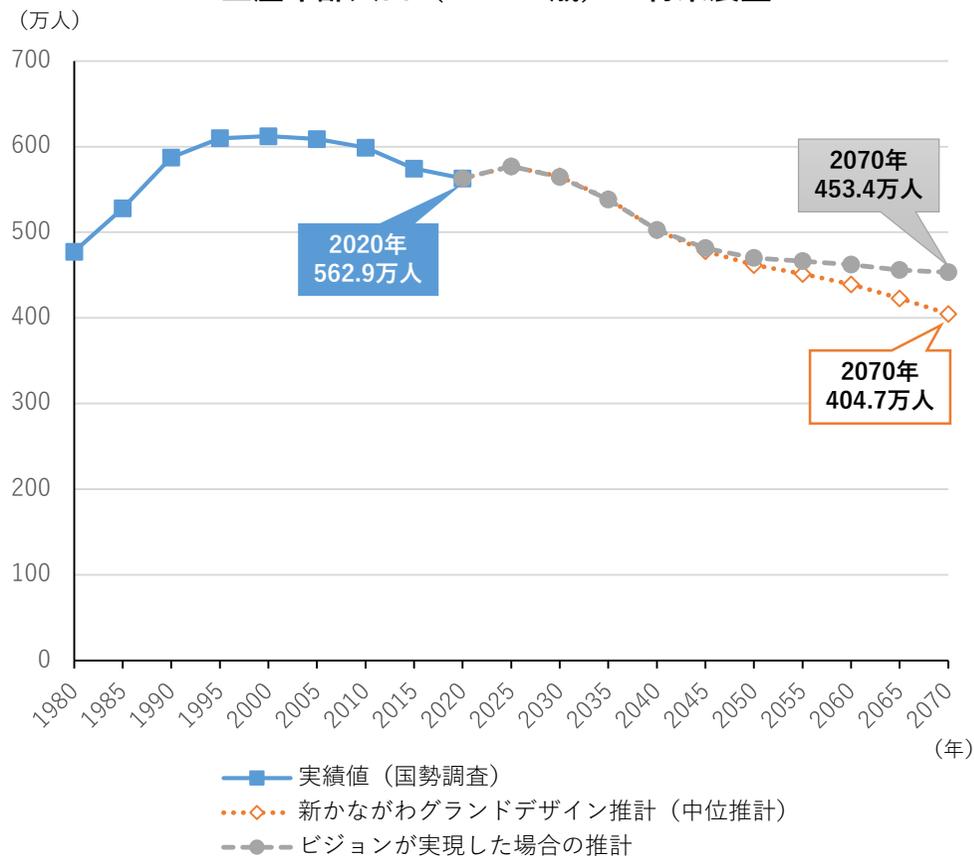
【3 ビジョン実現時の将来展望（シミュレーション）】

■シミュレーション結果（県年齢3区分）

年少人口（0～14歳）の将来展望



生産年齢人口（15～64歳）の将来展望



※新かながわグランドデザイン推計（中位推計）の2040年より先の推計値は参考値

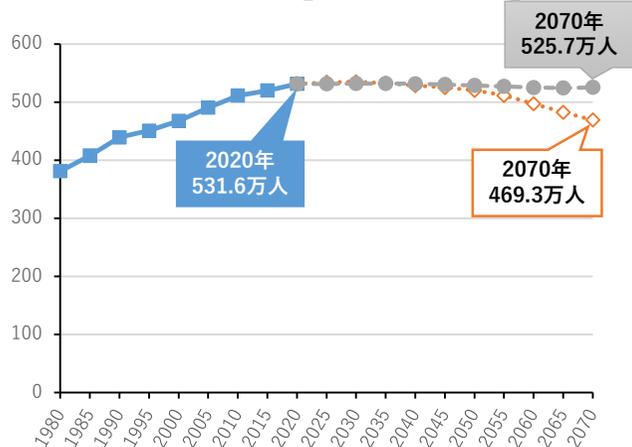
3 人口ビジョン改訂概要

② 将来展望

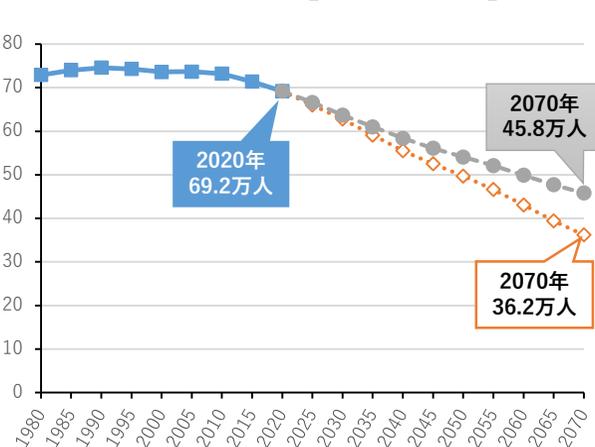
【3 ビジョン実現時の将来展望（シミュレーション）】

■シミュレーション結果（地域政策圏別人口）

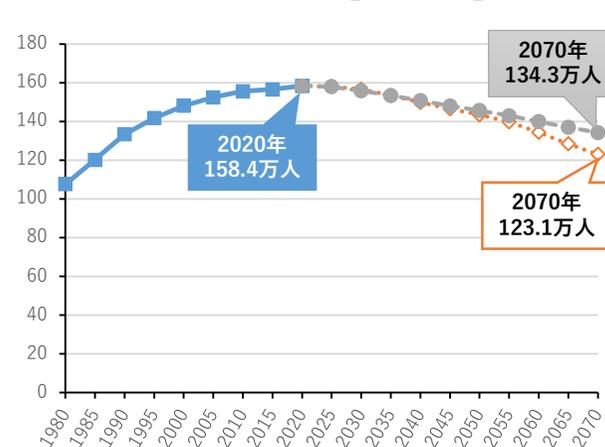
人口の将来展望【川崎・横浜地域】



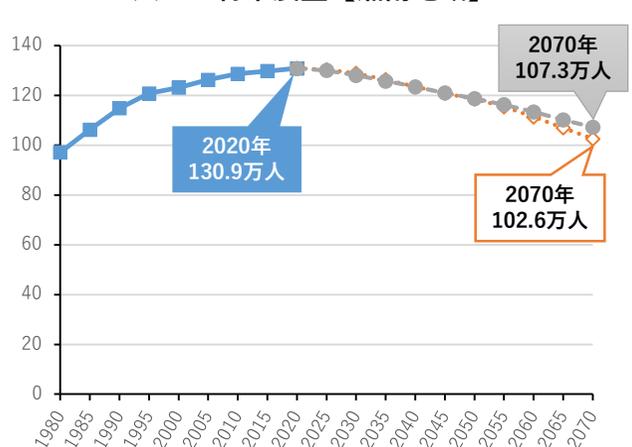
人口の将来展望【三浦半島地域】



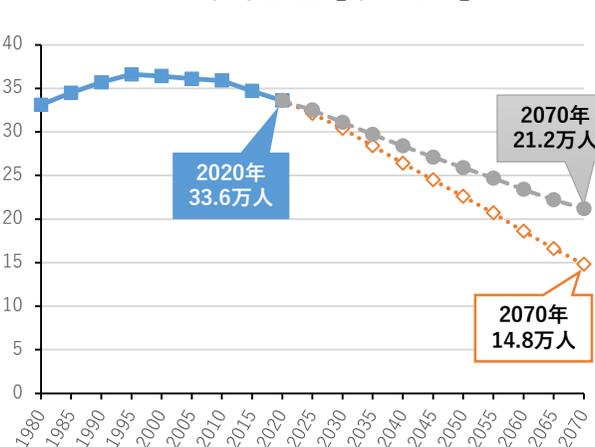
人口の将来展望【県央地域】



人口の将来展望【湘南地域】



人口の将来展望【県西地域】



■ 実績値（国勢調査）
◆ 新かながわランドデザイン推計（中位推計）
● ビジョンが実現した場合の推計

※新かながわランドデザイン推計（中位推計）の2040年より先の推計値は参考値

3 人口ビジョン改訂概要

③ 参考資料集

<参考資料集の概要>

- 希望出生率算出のために実施した県民意識調査の概要
- 本編各図表の数値や参考図表を掲載

■構成

1 県民意識調査の概要

(1) 実施概要

(2) 主な調査結果

- ア 結婚に対する考え方
- イ 理想的な子どもの数
- ウ 現実的に予定する子どもの数
- エ その他

(3) 希望出生率の算出

2 人口分析参考資料

(1) 人口の動向

- ア 総人口と年齢3区分別人口の推移
- イ 自然増減と社会増減の推移
- ウ 地域政策圏別人口の推移
- エ 外国籍県民の推移

(2) 出生等の動向

- ア 出生数・合計特殊出生率の推移
- イ 初婚年齢の推移
- ウ 未婚率の推移
- エ 死亡数の推移

(3) 人口移動の動向

- ア 神奈川県と全国との人口移動
- イ 地域政策圏別の人口移動
- ウ 年齢階級別の人口移動の状況

3 ビジョン実現時の人口の将来展望（シミュレーション）結果

(1) 県総人口のシミュレーション結果表

(2) 地域政策圏別人口のシミュレーション結果表

第3期総合戦略の改訂概要

4 第3期総合戦略改訂の考え方

■改訂の前提方針

第3期総合戦略の計画期間中であることから、柱レベル（基本目標や中柱、小柱）での見直しは行わない

■改訂の柱

➤ 神奈川県人口ビジョンの改訂を踏まえた見直し

- 基本目標3数値目標「希望出生率の実現」目標値の見直し
- 人口動向に劇的な変化はなく、引き続きこれまでの「克服すべき課題」と「課題の解決に向けたビジョン」を設定していくため、総合戦略の大規模な見直しは実施しない

➤ 国総合戦略や各個別計画の見直し等を踏まえた目標値の見直し、主な取組の追加等

- 各局所管の個別計画の見直しを反映（計画間の整合性を図るための目標値の見直し）
 - その他、各局の取組状況を踏まえたKPIの追加等
- ※現時点で国総合戦略の改訂はない（R7夏に今後10年の基本構想をとりまとめる予定）

➤ 地方創生推進会議や県議会意見の反映

- これまでの地方創生推進会議や県議会での意見を各局へフィードバックしつつ、必要に応じてKPIの追加等

4 第3期総合戦略改訂内容

■数値目標の見直し〔数値目標数：1〕

基本 目標	数値目標	2027年度目標値	
		改訂前	改訂後
3	希望出生率の実現《暦年》	1.42	1.18

4 第3期総合戦略改訂内容

■KPIの見直し

追加したKPI〔KPI数：4〕

基本目標	中柱	小柱	KPI	年度	目標値
3	(1)結婚・出産の支援	②妊娠・出産を支える社会環境の整備	プレコンセプションケア講座の参加者数〔累計〕	2025	7,500人
				2026	15,000人
				2027	22,500人
3	(2)育児の支援	①子育てを支える社会の実現	放課後児童支援員及び放課後子ども教室指導者等の資質向上のための研修等の受講人数	2025	1,520人
				2026	1,540人
				2027	1,560人
3	(2)育児の支援	①子育てを支える社会の実現	放課後児童クラブの施設数	2025	1,427施設
				2026	1,434施設
				2027	1,441施設
3	(2)育児の支援	②困難を抱える家庭への支援	家庭と家以外で相談できる大人がいる生徒の割合	2025	60%
				2026	60%
				2027	60%